

濁水かわら版

スペイン風邪から100年 ⑨ 安倍首相の退陣考察

第103号 2020年10月31日
ほけ防止を兼ねて 中安 宏規
**11.03.9時

75年前の8月28日は…

Epilog 猛暑の8月28日、安倍首相が突然、辞任表明してから早や2か月が過ぎた。コロナに追われ今更の感があるも、75年前の1945(昭和20)年8月28日は特別な日でした。①日本を敗戦に追い込んだ連合国の主力アメリカ軍の第1陣が、厚木飛行場に到着し同日、連合軍総司令部(GHQ)を横浜に設置した。

②敗戦処理の第43代首相・東久邇^{ひがしくになるひこ}稔彦王(皇族)が、^{こくたいごし}国体護持(天皇制国家の継続)と^{そんざんげ}国民総懺悔を記者会見で表明した歴史的な日でした。その2日後の8月30日、マッカーサー元帥が厚木に到着。パイプを片手にタラップを降り9月2日、東京湾上の米艦ミズリ号上で日本は降伏文書に調印した。同日、日本軍の占領国ベトナムがフランスからの独立宣言を行った。現在、ベトナム進出の日本企業は1800社を超える友好国。3日の独立宣言国は多いが、時めく菅首相は初外交訪問国にベトナムを選んだ。次の訪問国インドネシアは戦場にならず、敗戦翌日の8月16日、日本軍幹部と話し合い17日に独立宣言した。こうした歴史背景を外務省などが付度した“菅初外交”と、私は考える。

① **図A**は、東久邇稔彦首相(1887-1990年)の著書「私の記録」(1947年刊)、**図B**は同書掲載の肖像写真と皇族の身分を離れる決意の冒頭部分。次に目次があり、「フランスの想いで」の自己紹介から本論に入る。今回は同書の「国民総懺悔」を中心に紹介する。数字は算用数字、文体・漢字は現代用語に変えた。

見るもの聞くもの皆珍しい フランスの想いで

② 「欧州に行く前までの私は、日本の皇族として、何と云ってよいか——旧式な鎖国的とでもいうのか——古い因習の中に閉じ込められていた。全く、個人としての自由さはなく、芝居一つ見に行くことさえ出来なかった。思想的には、日本は神国、世界に冠たる国——日本のみがエライとして教えこまれていた。私は、日本の皇族の仕来りとして軍隊教育を受け、 **次頁へ**

図A



図B



写真は左右をカットしました。

私は、国民の皆さんにお話しているつもりで、この筆を執った。
私は、これからは平民の一人となつて新日本の誕生に微力をつくしたい。

昭和二十二年新春

稔彦

モネのアトリエで受けたクレマンソーの忠告

陸軍幼年学校以来、かたよった狭い見方にならされてきた。こうした私だっただけに、フランスに行ってみると、見るもの聞くものが、みな珍しく新しい。—1919(大正8)年、第1次欧州大戦終了直後のことである。当時私は陸軍少佐であった…」

虎ほえる 日本外交は拙劣だ

③ 東久邇首相は、1927(昭和2)年に帰国するまで約8年間の留学で、フランス陸軍大学のほか、私立大学で政治学や社会学も学んだ。こうした合間に好きな絵では、人を介して印象派の巨匠クロード・モネ(1840-1926年)を訪ねた。そこでモネの親友の政治家 G・クレマンソー(1841-1929年)に出会う。彼は「**虎**」のあだ名で呼ばれていた。日本嫌いの虎と議論を戦わせるうち、ある日1919年1月のパリ講和会議の話で吠えた。

虎:「パリの講和会議における[日本の出方]は、よくなかった。日本の外交は拙劣でなっていない。日本人は、国際的に知己、友人をもっていない。それでいて、自分だけの意見を押し通そうとする。無理な話だ。国際関係を、もっとよく考えなくてはだめだ。じゅんじゅんと教えてくれた。西園寺公のことは、非常にほめていたが、その他の日本側の全権については—だめだ—といって人の名を一々指摘していた」。(注:同会議の日本の全権は西園寺公望・牧野伸顕らで米英仏伊と共に5大国の仲間いりをした)。虎:「他民族や国家を征服することはよくないことだ。また非常に困難なことだ…。英国におけるアイルランド、フランスにおける北アフリカ、オーストリアにおけるチェコのようなもので、**日本も将来、朝鮮のことでは、ひどく困ることが、きっと起こるだろう…と、こんこんと注意してくれた**」。

*クレマンソーの予言は100年後、北朝鮮との拉致問題、韓国との徴用工問題を、最長政権を樹立した安倍首相は解決出来ないまま退陣した。

④ 東久邇首相は帰国後、軍部で国際協調や軍縮の必要性を話すと「**アカ**」呼ばわりされたという。支那事変(日中戦争)では第2軍司令官(中将)で武漢攻略戦を指揮、蒋介石との和平を求めたが実現しなかった。39年大将。41年10月、日米交渉が行

きつまり、東久邇宮内閣構想が東條陸相や近衛首相から出た。重臣会議を招集して結果を天皇に伝える木戸幸一内府は、①臣下に人なしと思われ兼ねない。②万一日米開戦に突入し、予期の結果を得られない時、皇室は国民の怨府となる虞ありと考え、近衛内閣の後継首相に東條陸相を重臣会議で推薦。反対意見が無いと上奏し東條内閣が誕生した。天皇は「虎穴に入らざれば 虎子を得ず」と述べたという。(木戸日記より)

総理大臣なんて まっぴら御免!!

⑤ 再び「私の記録」に戻ろう。1945年8月14日「夕刻、松平内大臣秘書官長が面会を求めてきた—木戸内大臣が来るはずであるが、非常に忙しいので、その使いできました…鈴木総理が近く辞職するかもしれない。その場合に、軍部を抑えて、後継内閣を組織しうる自信を持っている重臣が、今のところいない。その時には東久邇宮に出馬をお願いすることになるかもしれない—と内府の伝言を述べた」。私は「政治家ではなく皇族であって、また軍人で、政治に関しては何等経験もない。私は、皇族は政治に関係しないほうがよいという考えを持っている…。私の父の久邇宮朝彦親王は、孝明天皇の御相談にあずかって攘夷論を退け開国論に賛成した。維新後、明治政府から謀反の嫌疑を受けて、数年間、広島に流され蟄居を命じられた。その後、許されて京都に帰り、皇族としての地位は与えられていたけれども、他の皇族と差別ある待遇を受けた。家は非常に貧乏になり、私(朝彦親王の第9王子)ら子供達は、皆別れ別れに人の家に預けられて育てられた。私は子供心に、このことが身にしみ、けして政治に関与すまいという考えを持っていた。総理大臣になることは、まっぴら御免です—とお断りした」。

天皇陛下がお待ちしています

だが14日夜、近衛師団の一部が15日昼の陛下のラジオ放送用の録音盤を奪い取ろうとした事件が発生、阿南陸相が15日未明に自決した。同日、侍従職が「陛下が東久邇宮をお待ちである。午前9時に宮城に参内するよう」電話してきた **次頁へ**

お待たせしました。記者会見を紹介します

敗戦処理内閣を引き受ける決意をした東久邇宮は、天皇に拝謁した。天皇は彼に対し「卿に内閣組織を命ずる。特に憲法を尊重し、詔書(天皇の言葉を記した文書)を基とし、軍の統制、秩序の維持につとめ、時局收拾に努力せよ」であった。

言論の自由と初の記者会見

⑥ 組閣は乗馬仲間の緒方竹虎(1888-1956年・朝日新聞副社長を経て小磯内閣情報局総裁に就任し言論統制を行なう)を書記官長に任命。学習院時代から交流ある近衛文麿(1891-1945年・第34、38、39代首相を歴任し45年戦犯に問われることが判り自殺)の協力を得て行った。その後の事はカットし、8月28日の内閣記者団との初会見から紹介しよう。

⑦ 冒頭「8月28日、私は内閣記者団と初会見をして率直に自分の所信を述べた。私はこの会見が重要な意義を持つものと考えた。なぜなら、無謀の戦争と敗戦の原因の大半は、言論の抑圧に根因が存していた—政治を正しくし、世の中を明るくし、建設の気運を盛り上がらせるためには、何より先に、失われた[言論の自由]を回復しなければならぬからである。この言論の抑圧を打開するためには、まず私自身から始めなければならぬ。それから特に言論機関にたずさわっている記者諸君が、彼等自身の言論を活発に展開して、言論の自由を確保する役割を果たしてくれなければならぬと考えたからである」。会見の速記録を基に書いていると、述べている。最近の政府は記録を残さず、破棄を優先しているように見える。

以下Qは質問 回答をAとした。

⑧ Q:戦争の敗因を究明し、国民の前に明確にすべきと思う。

敗因① 脳溢血で頓死

A:敗戦の原因は、戦力の急速な崩壊であった。議会で提出する数字を調査中…加えて惨状つくし難い原子爆弾の出現とソ連の進出(宣戦布告)が戦敗の原因だ。また余りに多くの規則・法令が発せられた…。政府、官吏、軍人自身が知らず知らずのうちに戦敗の方向に導いたと思う。知らず知らずの意味はお国のためにしていると思いが

ら、実は、我が国は動脈硬化におちいって、急に脳溢血で頓死したように思われる。

敗因② 軍・官・国民が闇生活

さらに国民道徳の低下ということも敗因の一つと考える。一例をあげると、軍官は半ば公然と、国民は密かに、闇をやみをしていたのである。ここに至ったのは無論政府の政策がよくなかったからであるが、国民道徳のすたれたのも原因の一つであると思う。この際、私は軍・官・国民全体が徹底的に反省し、ざんげしなければならぬと思う。全国民総ざんげすることが、わが国再建の第一歩であり、わが国内団結の第一歩であると信ずる。

8月28日。晴。…午後、村田氏の細君岡山に行き東京行の汽車乗車券を得る手はずという。余にも(東京に)同行せよと勧める。地獄の沙汰も金次第という。8月29日。晴。村田氏の細君と岡山駅へ行き、ツーリストビューローの事務員に面会し金子一包を贈り、東京行2等の切符を得たり。夢を見る心地なり。夜、村田氏一家と赤飯を食す。作家永井荷風「断腸亭日乗」より

私が朝、散策する雑司ヶ谷霊園に荷風の墓がある。3月10日の東京大空襲で、病身66歳の独り身の彼は自宅偏奇館(へんきかん)を焼失。焼け跡を軍が無断で接收、知人・友人を頼る。駒場の友人夫妻に助けられ渋谷駅に3度足を運び、夫妻と罹災者専用列車の切符を購入。岡山県総社に流れ着く。現今、戦前の自助・共助・公奪(現在は公助)のような政治が、大手を振っている。

⑨ Q: 国民の究極の目標である国体護持、民族の名誉の保持を、如何に全うすべきか。

A:国体護持は、理屈や感情を超越した固い我々の信仰である。先祖伝来、われわれの血液の中に流れている一種の信仰である。現在においては先日下された詔書を奉戴し、これを実践に移すことが、国体を護持することである。また一方、連合国から提出してきた条項は、確実に忠実に実行することに困ってのみ、わが民族の名誉を保持し、増強することが出来ると思う。

この質疑は⑧の前に行われた。首相は「現在においては」と、断っている。天皇退位やGHQの命令、衆院選挙、憲法改正などを視野にいれていたものと思われる。 次頁へ

戦争末期から東久邇宮政権までの混乱

1

内閣を背負う人材がゼロに陥り、皇族の東久邇内閣が誕生した流れがある程度判ったように思った。
下表は**広島への原爆投下**➡**ソ連の宣戦布告**から

混乱に陥った日本の姿を時系列で追ってみた。
□は御前会議と天皇の裁断。トップの隠ぺいごまかしが現政治と通じる点が多々あり!?

| 1945 年日時 | 時刻 | 主管 | NEWS |
|----------|----------------|-------------|---|
| 8月6日 | 8時15分 | | 米軍広島に原爆投下 |
| 8月7日 | | | 米大統領、強力爆弾投下を発表 |
| 9日 | 1時頃 | 同盟通信 | ソ連が日本に宣戦布告 同盟通信の長谷川外信部長が「サンフランシスコの放送によると宣戦布告したらしい」と迫水書記官長に電話で伝える。 |
| 9日 | 4時 | 同盟通信 | 松本俊一外務次官と 外務省ラジオ室へソ連参戦を連絡。 |
| 9日 | | 政府 | 松本次官、東郷外相宅へ向かい、安藤政務局長、渋沢条約局長の4者が協議、ポ宣言が国体護持に触れていない条件で、ポ宣言を受諾することで意見一致。 |
| 9日 | 8時? | 政府 | 東郷外相、鈴木貫太郎首相宅へ。首相は「戦争最高指導者会議構成員会議」の開催を指示。外相は外務省への帰途、海軍省により、米内海相に伝達。 |
| 9日 | 10時 | 宮中 | 木戸内府、ソ連参戦を報告。天皇は「戦局の收拾を急速に決定の要あり。首相と充分懇談せよ」と仰せになり、木戸は天皇の意向を首相に伝える。 |
| 9日 | 11時 | 政府 | 政府最高戦争指導者会議開催。メンバーは鈴木首相・東郷外相・阿南陸相・米内海相・陸軍の梅津参謀総長・海軍の豊田軍令部長の通称6巨頭。 |
| 9日 | 11時2分 | 会議中に | 米軍が長崎に原爆投下 (午前中に情報届くも時刻不明)。会議は続行し |
| | 13時終了 | | ①国体護持を切り離すことを承認。次いで陸軍は②武器は自主的に放棄。③戦犯は日本国内で処理。④保障占領を行わない—3点で外務省と対立し終わる。 |
| 9日 | 14時半 | 政府 | 閣議開催、米内海相が外務省案を強く主張。阿南陸相が終戦に絶対反対。外相案が多数意見も、閣議の一致はなく終る。 |
| 9日 | 23時 | 政府 | 鈴木首相と東郷外相が拝謁。外相が経緯を説明。首相は最高戦争指導者会議を御前で開き平沼枢機相の参列を要望。直ちに勅許(天皇の承諾)を得た。 |
| 9日 | 23時50分 | 御前会議 | 会議は地下10mの宮中に新設された防空壕内で開かれた。①東郷外相の甲案と②阿南陸相の乙案が提出された。(下表参照) 会議は鈴木総理が司会した。 |
| | | | 甲案 賛成☑ |
| | | | ①ポ宣言に国法上の天皇の地位変更がない条件で受諾する。 東郷外相 米内海相 平沼枢機相 |
| | | | 乙案 賛成☑ |
| | | | ②在外日本軍は速やかに自主的復員する。③戦犯は日本が国内で処理する。④保障占領(一定の条件履行する目的の占領)をしない。 阿南陸相 陸軍・梅津参謀総長 海軍・豊田軍令部長 |
| 10日2時 | | | 首相の指名で迫水書記官長がポ宣言全文を読む。次いで東郷外相が経過と甲案を説明。阿南陸相が「外務大臣の意見に反対です。乙案なら承する。わが軍は絶滅したわけではなく、死中に活を求めて戦えば終戦の機会があると思います…。首相は意見が3体3になり、議決をせず、御前に進んで聖断を仰いだ。 |
| 10日 | 2時20分 | 天皇 | 私は外相案に同意する。これ以上戦争を続けて無辜の(むこ=つみがない)国民を苦しめるに忍びない。速やかに戦争を終結したい。…開戦以来陸海軍は、予定と結果が一致しない。本土決戦などと言い、参謀総長から九十九里浜の防護を聞いたが、侍従武官が現地を見て防護は出来ていない。また新設師団に渡す銃剣すらないようだ。この状態で本土決戦をしたら日本民族は皆死んでしまうのでないかと思う。…世界人類にも不幸なことだ…忍び難いが今回の戦争を止める決心をした。 |
| | その後 | 政府 | この聖断による終戦を「絶対秘密情報」にして国民に公表しなかった。 |
| 10日 | 6時45分 | 外務省 | 東郷外相は、加瀬スイス公使(米/支)担当、岡本スウェーデン公使(英・ソ担当)へポ宣言受諾を緊急報で発信。関係国へ知らせるよう伝えた。 |
| 10日 | 16時半 | 政府 | ポ宣言の受諾をにおわす下村情報局長談話を発表。 |
| 10日 | 16時半 | 陸軍 | 全軍玉砕の陸相布告を捏造し新聞社に配布。(陸相は知らなかったと伝わる) |
| 10日 | 20時10分 1時間後 | 同盟通信 | 外務省の依頼を受け、軍の検閲が無いモールス信号でフラッシュを入れながらポ宣言受諾を送信。ワシントン時間6時15分、UP電が配信。トルーマン大統領がバーンズ國務長官らを呼び、相談したことが判明した。 |
| 10日 | その後 | 外務省 放送協会 | 外務省は、海外反響を確認、放送協会(NHK)に軍に止められるまで放送を依頼、3回目の放送で止められたことが判っている。 |
| 11日 | 朝刊 | 各紙 | 下村談話とニセ陸相布告が並んで掲載される。 |
| 11日 | | 東久邇宮 | 朝日の記者が「国民に知らせないと軍の反対派が策動する恐れあり」と忠告にきた |
| 11日 | | 陸軍 | 10日のニセ布告は軍規違反の声に、陸相は「自分の意図に沿う」と違反問わず。 |

出典:外務省編「終戦史録」 迫水久常「大日本帝国最後の四か月」 東久邇宮稔彦「私の記録」 歴史年表など。 (続く)